

ごあいさつ (事業の概況)

平素は変わらぬご支援を賜り有り難く厚くお礼を申しあげます。

本年も、当金庫の経営内容をご理解いただき、引き続き安心してお取引いただけますよう、ディスクロージャー誌「上越信用金庫の現況2012」を作成いたしましたので、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

平成23年度の我が国経済は、未曾有の被害を及ぼした東日本大震災やタイの洪水等により、経済活動に深刻な影響を与える厳しい事態に陥りましたが、当初予想より早めに供給面の制約が終息したことと、個人消費の改善から景気は持ち直し過程に入りました。その後ギリシャの財政危機を発端とする欧州の財政金融危機や歴史的な円高により、国際的に経済が減速し、生産や輸出の伸び悩みと災害の影響とで貿易収支は31年ぶりに赤字となるなど景況は急激かつ大幅な落込みとなりました。

こうした中、2月に日本銀行は長期デフレからの脱却と円高是正のため、「中長期的な物価安定の目途」を当面「1%」とし、追加緩和として資産買い入れ基金の増額を発表したことを受け、市場では円ドルレートが円安にふれ、日経平均株価も1万円台を回復し、併せて震災復興需要が本格化してくることから、今後の景気回復が見通せる状況になりました。

当地では大型プロジェクトが進んでおりますが、景気の下支え効果は部分的なもので地域経済は引き厳しい経営環境にあり、お取引先では受注や売上の減少、収益の低下傾向が改善されない一年間となりました。

こうした状況下において、当金庫の業績につきましては、預金は期末残高200,014百万円となり前年度期末比3,475百万円増となりました。科目別では、定期性預金が123,880百万円、要払性預金が76,134百万円、人格別では、個人預金が167,487百万円、法人等の預金が32,526百万円となりました。

貸出金は期末残高73,636百万円となり前年度期末比521百万円減となりました。科目別では割引手形が1,549百万円、手形貸付が6,856百万円、証書貸付が60,660百万円、当座貸越が4,569百万円、人格別では、個人への貸出金が27,563百万円、法人等への貸出金が46,073百万円となりました。その結果、預貸率は36.81%となりました。

有価証券は期末残高79,692百万円となり、前年度期末比11,782百万円増となりました。

損益状況につきましては、業務純益357百万円、経常利益359百万円、当期利益310百万円となりました。

当金庫では、3ヶ年計画『しんきん「つなぐ力」発揮2009』の最終年度として、経営の効率化や内部管理態勢の強化による永続性ある経営の確立や地域密着型金融への取組みを通じた地域活性化、さらに協同組織としての信用金庫の独自性を発揮するこの3点を基本に据え、その具現化等の一つとして「ふるさと絆プロジェクト」を立ちあげ、地域密着型金融の更なる深化や地域貢献活動への積極対応を推し進めてまいりました。

今年度は、これらの基本的理念はそのまま継続し、新たに第2次『しんきん「つなぐ力」発揮』3ヶ年計画を策定し、初年度をスタートいたしました。お取引先企業や個人の皆様の課題解決に向けての支援や地域活性化に向け積極的に取組み、地域において、より存在感と信頼性の高い金融機関となるべく、役職員一丸となって業務に邁進する所存でございます。

終わりに皆様方のご発展、ご隆昌を心からお祈り申しあげるとともに、一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申しあげ、ご挨拶いたします。

平成24年7月



理事長 佐藤 健